

しずおか平和の風

No.19
2016年11月25日
発行
静岡市
平和委員会
静岡市葵区鷹匠
1-5-8
TEL 253-1854
FAX 252-0785
メール
Peace-City
@mail.707.to

浜岡原発の再稼働を許さない!!

11・20 ひまわり集会 inしずおか

集会で採択されたアピールでは、◆浜岡原発は、世界一危険な原発と言われ、やがて必ず来る東海地震・南海トラフ地震の震源地の真上に立っている。◆だが、この政府が停止要請を行い、停止した全国で唯一の原発。◆中部電力は、規制委員会の審査の中で原発敷地の直近にA17という

活断層があることを認め、9月末の安全対策終了予定を延期せざるを得なくなった。◆これから敷地内を走るH断層との関係が問われ、これまで言われていたプレート型の地震の揺れだけでなく、熊本地震のような活断層型の激しい揺れとなる可能性も出てきたと指摘している。◆文字通り世界一危険な浜岡原発は、絶対に再稼働を許してはなりません。

11月20日午後、駿府城公園で「浜岡原発の再稼働を許さない!! 11・20 ひまわり集会 inしずおか」が開かれ、全県から2800名が集まり、集市内内パレードが行われました。平和委員会も各地から集まり再稼働反対を訴えました。

林克実行委員長長の主催者挨拶に続き、ゲストとして登壇した三上元湖西市長、首都圏反原発連合のミサオ・レットウルフさん、原発メーカー訴訟弁護団 島昭宏弁護士、福島帰還困難区域住民避難者 菅野みずえさんのスピーチが行われ、それぞれ浜岡原発再稼働させない、廃炉に向け市民に呼びかけました。島津幸弘共産党衆議院議員の挨拶とともに、自由党静岡支部の皆さんも紹介されました。



←駿府城公園からパレードに出発する参加者

平和学習 in 東京

靖国神社・江戸東京博物館

静岡市平和委員会は、秋の平和イベントとして、靖国神社・遊就館、江戸東京博物館視察を計画し、会の内外の皆さんに参加を呼びかけました。たいへん好評で、バス1台25名の参加で11月23日、朝出発です。靖国神社では、その本質を学ぶように東京新宿平和委員会、秋の平和ガイドを依頼しました。ふつうに見学するだけでは、国民をあの悲惨な侵略戦争に駆り立てた靖国の危険な姿が見えにくいこともあって、この企画に期待が寄せられています。江戸東京博物館では東京大空襲の展示など、平和を願う私たちにとって一度は見ておきたい資料館です。事務局長・三輪矩正

つむじ風 日中戦争の実相を語る写真展

この12月1日から4日まで、静岡市民ギャラリーで、「一日本兵が撮った日中戦争」と題する写真展が開催される。写真を撮ったのは村瀬守保さん(1909年～1988年)。1937年から中国大陸を2年半にわたって転戦。中隊の写真を撮るということで、カメラ2台を持ち非公式の写真班として認められ、約3千枚の写真を撮影したという。軍の検閲を免れた村瀬さんの写真は、日本兵の人間的な日常に始まり、南京事件や「慰安所」など、戦争の実相をリアルに伝える他に例をみない貴重な写真となっている。

村瀬さんは、その中から50枚ほどを選び、「このような戦争を再び許してはならない」という思いで、自らキャプションを書いた。村瀬さんの次の言葉には重いものがある。

「一人一人の兵士を見ると、みんな普通の人間であり、家庭では良きパパであり、良き夫であるのです。戦場の狂気が人間を野蠻に変えてしまうのです。」

日本中国友好協会静岡支部主催で、入場は無料ということだ。(合戸 政治)



◇10月19日～22日、年金者組合主催の「沖縄平和ツアー4日間」に参加。静岡空港から2時間の沖縄ですが連日30度を越す夏の気候でした。◇ツアーを企画した「たひせん」社長大西さんの案内で瀬長電次郎「不屈館」(那覇)、辺野古、普天間基地、高江ヘリパッド建設地、やんばるの森、嘉手納基地、琉球新報社、糸満「平和の礎」、などを巡りました。あつためて国土面積の0.7%の沖縄に米軍基地の70%が置かれているこの不条理を感心しました。◆なかでも、ヘリパッド(着陸帯)工事が強行されている東村高江は、工事車両の行き交うところは見られませんが、県道には本土から派遣されてきた機動隊の車両と機動隊員が住民や支援者を監視する状況には怒りや身震いするほどでした。◆高江村や沖縄県民が連日反対行動を展開し、頑張っている姿には頭の下がる気持ちでいっぱいになりました。この状況をもう少し多くの人々に知らせていかなければとも思いました。「勝つ方法はあきらめないこと」という看板、『不屈』と名づけられた抗議舟の船長さんの話、県民に寄り添った報道を続けている「琉球新報」編集長の話などいづれも心に響くものでした。◆私も、励ましの旗に「小指の痛みは、全身の痛み」と、連帯の気持ちを書きました。

足久保 新村直樹

静岡市の女性の戦中・戦後のくらし(前半)

— 山本 志げ (86歳) —

昭和十六年四月一日、初等科6年、高等科2年の国民学校となり、義務教育が8年となりました。それまでは、小学校6年で学校を終える子がいました。

十二月八日、太平洋戦争が始まり、私は小学五年生でした。新聞はあつたけれど、ラジオはお金持ちの家にだけあり、学校で先生からニュースを聞いて、母に教えてやりました。

毎日のように兵隊に行く人を見送り、坂の上のはずれまで歩いていきました。特攻隊に志願して出征する若者も旗をふって見送り、今のよう

にテレビもなく、どこへつれて行かれるのかわかりません。兄も二十歳になり出征しました。戦争で大切な命が亡くなりました。子供の頃はいつ殺されても構いませんでした。今の若者にはわからないでしょう。戦争をゲームのように考えているならば、外国へ行って戦地を見てきたほうが良い、日本は消えてなくなる小さな国です。戦争なんて思い出した

くない話です。毎日のように出征兵士を見送り、戦死した「英霊」をお迎えをしてお寺に行き、勉強をする時はありません。男の先生は兵隊にいつか女の先生が二級級を受け持っていました。

男の先生がいたけれど、宿題を忘れると、並ばせて右からも左からもびんたをくれて転ぶ子もいました。いつもやっつこない子ばかりです。きつと宿題を忘れたではなく、わからなかったと思いましたが、六人の組を作り、みんなで手や足の指を出して、引いたり、足したりして教え合いました。八年間も学校へ行っていたのに、今の二年生位もできなかったと思います。

帳面もなし、鉛筆もなし、習字は新聞紙が黒くなる程練習し、清書の時は先生が渡す半紙一枚に丁寧に書きました。夜は電灯を黒い布で囲い、外に灯がもれないようにしました。毎日のようにB29がうなりを上げて飛び去りました。山に逃げ、藤棚の下に隠れたり、爆弾も焼夷弾も落とさなかつたけれど、飛行機が煙を吹いて落ちてゆくのは見ました。

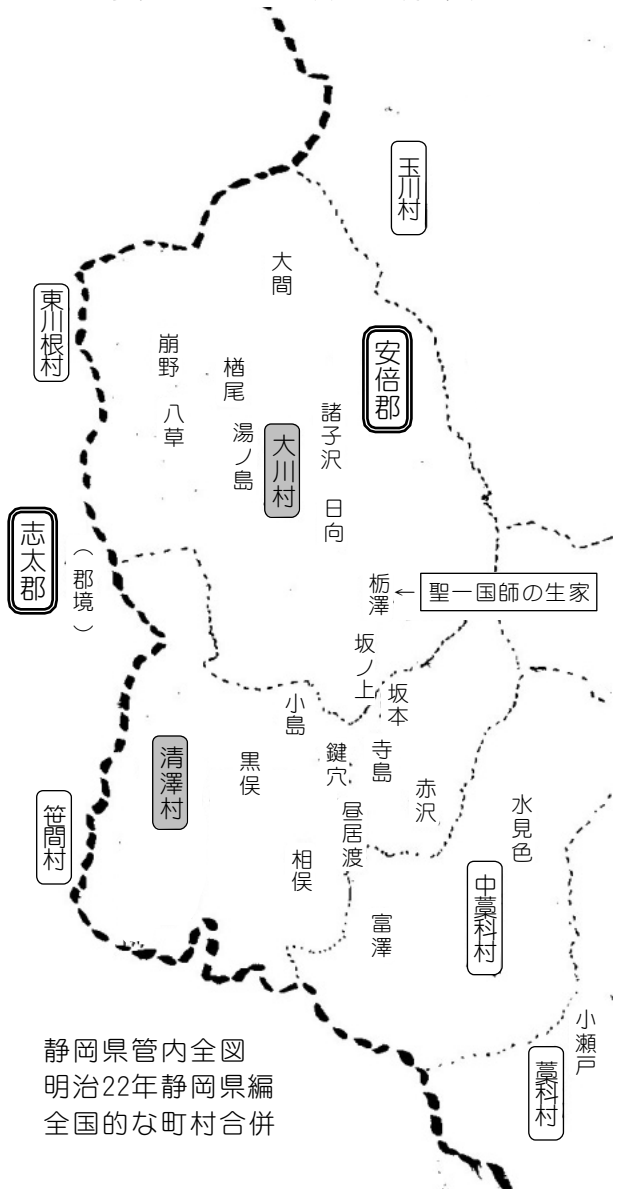
先生から勉強を教えてもらえませんでした。百姓する人も老人と女子供では作れなくなり、芋の雑炊を食へ、米は大切にしました。弁当は麦飯と梅干し、少しだけだしをかけ、しょうゆをかけておいしかったです。弁当を持ってこれない子もいて、校庭に二人く

らいました。靴もなく、藁ぞつりを履いて、体操の時ははだしてかけっこをしました。諸子沢の子は片道一時間かかり、ぞつりが切れるので、帰りのぞつりを持ってきました。馬力が材木を運んでの帰り、荷台に乗せてもらい、たまには良かったと思います。だんだん負け戦となり、鍋、やかんも鉄砲の弾にすると、ある物を出して集められました。予科練に志願した少年も帰ってきませんでした。

昭和二十年八月十五日、戦争も終わりました。小さい日本が大きな国に立ち向かっても物はすくなくなり、人にも限りがあります。偉い人は何を考えていたのでしょうか。大勢の命が亡くなりました。焼け野原になり、失う物が多いです。世界中の人が早く気づいて助け合うように願います。ポケモンに夢中になっている若者、老人が焦っている、今は年金を頂き暮らして感謝しています。戦争のばかばかしい事―竹槍でわら人形を突いた事、覚えの悪い子は宿題はできない、戦争は貧しくなるだけ。

付記 “方言” 考

旧安倍郡の大川村・清澤村



静岡県管内全図
明治22年静岡県編
全国的な町村合併

ひと昔まえの安倍郡大川村・清澤村のご紹介。両村とも藁科川沿いにひらけた村。(清澤村は黒俣川沿いにひらけた地域とに分かれています)人口の変化

大川村 1990年1462人→2000年1177人
清澤村 1990年1901人→2000年1665人

現在の大川小学校の児童数13人、清沢小学校のそれは24人。

大川地区、清沢地区(うち旧清澤東小学校区)で昔も今も使われている言葉のいくつかを紹介します。()内は全国方言辞典の注釈。

- ①おおきに (ありがとう。山形、愛知、三重、和歌山、京都、高知、長崎)
- ②知らのう <知らぬ+0ではなからうか。鈴木>
- ③かこくさい (きなくさい。遠州、尾張、静岡…)
- ④かんこくさい (きなくさい。) <静岡の地名はあげられていない>
- ⑤かこう (古語ではかかふ。布、ポロ布。畑で蚊やりのために布に火をつけたもの。静岡県榛原郡)
- ⑥ようじや (午後の間食。おやつ。山梨、静岡、伊豆大島、高知)
- ※ようじやをまいれー<昼食にしましょう>
- ⑦おみ (おまえ、あなた。伊豆三宅島、新島、岐阜、滋賀)
- ⑧うし (おまえ、きさま。和歌山県串本)
- ※うしやがれ (大川地区。こっちに來い。「うし」+「あがれ」ではな

- らうか。)
- ⑨きさま (大川地区。「あなた」の意で、男女共に使う)
- ⑩いっばしる (大川地区。行く)
- ⑪あま (天井。静岡、愛知、八丈島、富山、京都府の一部)
- ⑫うच्चやる (「うच्चよく」うちすてておく。構わずにおく。長崎、鹿児島)

◇高天原の神代に立ちもどったかの気になります。山間部で使われている言葉が、実に日本各地とのかかわりがあるという驚き。また、ごく近くの清沢小学校(相俣)地区の方々はこれらの方言の一部(「おおきに」など)は全く使われていない、のはなぜなのでしょう。◇京言葉が一部の地域とはいえなぜ今日まで使われてきたのでしょうか。◇「知らのう」と尻上がりに発音する、アクセントをおくがために「学校で本を読ませられることがいやだった」「読むと笑われた。ばかにされたように思われた」と、複数の女性が証言していました。奥ゆかしさ、やさしさを感じます。のにことばは人を育てる、と考えられます。◇建仁二年(1202年)聖一國師が柘澤で誕生、またその生家から源頼朝の愛馬するすみが出たという故事とのかかわりはないのでしょうか。一考したい、想像したいことばに思われます。(鈴木)